

生きてるみなさん、死んでるみなさん
千葉正也

彼女は素敵な人でした。彼女とは俺のおばあちゃんの事です。生前、かなり人の気分を悪くさせるような行いをしたり、金使いや人使いが荒かったりして他人に迷惑をかけるような事もあったと思います。でも俺はロックンロールでカッコいい人だと思ってたし、優しい人だという事も知ってました。

ところでこの文章、もちろん生きてる人が読むためのものですが、今これを書きながら、(死んでる人も読んでるかもしれない)なんて、大げさですが考えてます。俺はいま 25 歳で、ほぼ毎日絵を描く生活をしていますが、その事はいつも頭のどこかにあることです。なんでそんな事考えるようになったか、それを今から書きます。

高校生だった頃、俺は馬鹿でした。やっちゃいけないような事をするとな人が笑う。落とし穴掘ったり、ストリーキングしたり。ある日、神社で酔っぱらった俺は賽銭箱におしっこをして、みんな不幸になりますようにとお祈りするジョークをしました。するとすぐに母から電話がかかってきて、秋田の家で祖母が亡くなったという知らせでした。びっくり。馬鹿が一つ学びました。そういう事しちゃ、だめ。

数年後、俺は美大の二年生でした。『パワースポット巡り』と称した、半分ふざけたフィールドワークに夢中になり、東北を一周するという旅行をしました。途中、秋田でおばあちゃんの墓参りをする事に。合掌、昔より少しだけ馬鹿ではなくなった事を報告しました。墓参りの後、体調がなんか変。突然！ 駅ビルの地下スーパーで異常な恐怖感、目眩、「だいじょうぶ？」と声をかけてくれる友人の顔が悪魔に見えるので、「こっち見てんじゃねえよ」なんて言ったり、自分でもまともじゃないなんて思いながらも、スーパーは超スーパーだし、街は燃えてるマッチみたいだし。

ガード下で倒れている俺。すると、友達がなぜか知らないおばさんを連れてきました。おばさんは秋田駅前野宿しようとしていた俺たちに、家に泊めてやるから来なさいと言いました。家に行く道中、おばさんの犬のロープを俺が持つと、犬は嘔吐しました。家に着くとおばさんは「私は龍が憑いてるから何もしなくても月三百万はいってくる」「麻原彰晃は石川五右衛門の生まれ変わりだ」などの無邪気な台詞で俺たちを驚かせました。俺が、おばあちゃんの墓参りに行ってから体調が変だと言うと、背後に回り、「あなたのおばあちゃんは、いま地獄で苦しんでるからあなたにしがみついている。あなたも甘い顔しちゃダメ、それが彼女のためだから」と言いました。「今強い光当てるね」の台詞の後、俺はいわゆる『除霊』をされたのです。肩の辺りが重い感じだったのが、ずっと軽くなったかと思うと、腰の辺りで活きのいい鯛がビチビチとはねるような感覚。「なんか腰のあたりがちよっと」と俺が言うと、おばさんが「強い光あてたから下の方いっちゃったんだ」。そういうしくみか……。 おばさんが言うには、人間の 55%は地獄に落ちるらしいですよ。

次の日、龍のおばさんに止められながらも、山形に即神仏を見に行き、そこにはミイラさんが御二人いらっしゃいました。どちらの方も命がけで信念とアイデアを貫いたわけです。彼らの気持ちは、三日前ならわからなかったけど、その時の僕はまだ背中の方におばあちゃんの感触が残っていたので、不思議と身近に感じる事ができました。おもしろ半分眺めていた三途の川の向こうに、ふと見れば橋が架かっていたわけです。びっくり。ふらっと渡らないように気をつけたいものです。いやいや、マジで、『この世は何処まで行っても死体の埋まっていないところはない』というようなことを、詩人の金子光晴は言っていました。生きてるみなさん、いつか地面の下に行くわけですが、できるだけ陽あたりのいいところに埋まりたいものですね。埋まったらしゃるみなさんにさりげない優しさ。ゴミは捨てない。立ちションしない……。

おばあちゃん、あれから俺、またちよっとだけ頭良くなったんで、今度お墓に遊びに行きます。